

在来線風速計 風速値不変動予告機能「ムフーダ」の開発

背景と目的

防災情報システムの風速計は、沿線の風速値を観測する安全設備であり、新潟支社管内には176基と非常に多数の風速計が設置されている。風杯は夏季のつる草や冬季の着雪によって回転しなくなることがあり、24時間無風が継続すると設備障害扱いとなるため定期的な監視が必要だが、これが業務負担となっていた。監視業務の負担軽減、および無風が24時間継続する前に計画的に対処する事を目的に、無風継続時間を自動で検知する監視装置を開発した。

開発前の問題点

毎日176基の風速計に対して無風継続時間の確認作業を行うため年間500時間以上、日数換算で約70人工分の労力が必要となっていた。

実際に使用していた管理表

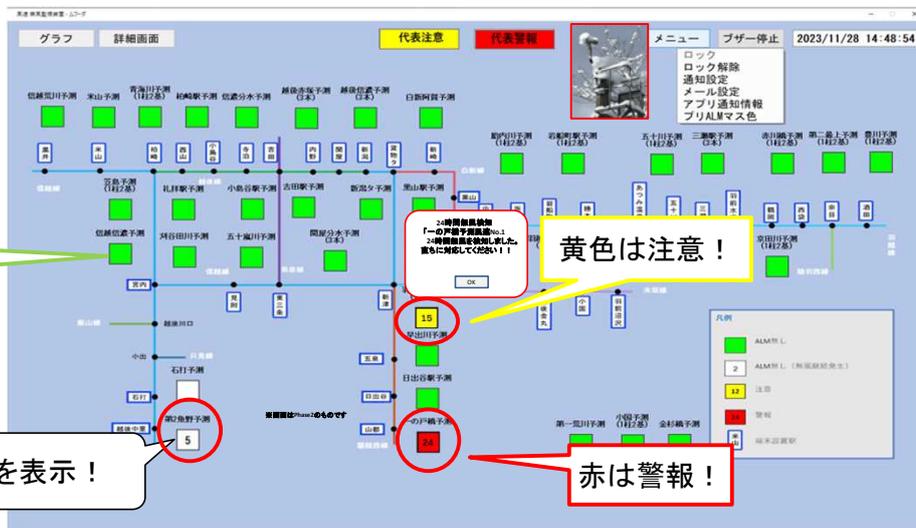


開発してよくなった点

無風継続時間の確認作業が自動化されたため、大幅に作業効率が上がり、人件費からコスト換算すると年間約百数十万円削減となった。また無風継続時間を画面上的アラームや、配信されるメールで知得できるため、計画的な対応が可能となった。

開発したもの

「ムフーダ」の監視画面(プリALM画面)



「ムフーダ」稼働画面(詳細)



グラフ表示画面

詳細表示画面

メール配信による無風状態の把握

